

EIP 企画パネルセッション 「IoT 社会に適した社会基盤のあり方」

【要旨】

2018 年 12 月に起きたソフトバンクの 4G ネットワークのトラブルは、様々な課題を明らかにした。今までの通信のネットワークでは、電話を中心に制度や仕組みが考えられてきた。そのため、4G のネットワークでも同様な考え方で設計されているといえよう。しかし、このトラブルでは、今までにない新しいトラブルが報告されている。例えば、ネットワークにアクセスしてコンサートのチケットをスマホで見せることができなかったため、会場に入れないとか、予約した飛行機の座席を表示出来ずフライトに乗れなかったケースが報告されている。本セッションでは、このようなこれからの社会を支える社会基盤としてのネットワークやアプリケーションのあり方について、合同開催の DPS 研究会からもパネリストとして参加していただき、技術的側面、マネジメントや IT ガバナンス、法制度などの観点から問題点を整理し、今後に必要な社会基盤のあり方について議論したい。

【パネリスト】

原田要之助（情報セキュリティ大学院大学）、小向太郎（日本大学）、

田中俊介（エヌ・ティ・ティ・データ）、須川賢洋（新潟大学）

【議題】

- （１）ソフトバンクネットワークトラブルが突き付けた課題
- （２）制度上の課題、
- （３）望ましい発展のための技術及び運用、および IT ガバナンス上の課題
- （４）その他